

学生の未来のための 5つのサポート

教育学部後援会では、保護者の皆さまのご支援のもと、学生の教育・研究活動や課外活動、進路指導に関するさまざまな援助を行っています。



1 キャリア教育 段階に応じたきめ細やかなキャリアサポートを実施



1年生の時から将来を見据えた有意義な大学生活を送れるよう、早い段階から指導を開始。卒業後のビジョンを描くキャリアガイダンスに始まり就職活動本番のサポートに至るまで、4年間を通して幅広い支援を行います。

コース単位でのOBによる就職・大学院進学指導講話

採用試験合格者による体験発表会

都府県別教職説明会(尚志会・東雲同窓会共催)

2 就職活動支援 専任の教員が常駐し就職活動について気軽に相談できる



学部独自に配置した一般企業・公務員担当教員と教職担当教員の2名が就職情報資料室に常駐し、就職活動をサポートします。

[相談・指導]

個別相談

自己アピール文の添削指導

面接指導

担当教員からのメッセージ

就職に関する情報が必要な時は資料室へ！

卒業後の進路に関わる就職活動には、しっかりした情報収集と十分な事前準備が必要です。全学をサポートするキャリアセンターに加え、教育学部には、他学部にはない「就職情報資料室」があります。私の担当は、主に一般企業と公務員志望の学生で、教員志望の学生を担当している教職担当教員と2人で就職指導にあたっています。学生の皆さんが納得できる結果が得られるよう、一緒に考えサポートしていきます。

就職情報資料室 就職担当教員 藤原 雅和

[情報提供]

就職関連図書・月刊誌

各種案内

- ・学内就職ガイダンス
- ・試験対策講座
- ・学外イベント/情報サイト

3 教員採用試験対策 難関の教員採用試験も経験に基づいてしっかり指導



卒業生の声 的確なアドバイスがもらえる面接指導

教育学部では、受験する県ごとのグループに分かれて教員採用試験の面接、模擬授業、集団討論の対策をします。教員採用試験や就職活動に精通している就職情報資料室の先生に助言をいただきながら、しっかり面接の練習をすることができたので、自信を持って試験を迎えることができました。

面接指導

各都道府県の情報収集

教員採用試験対策の実技補習

4 課外活動 教育学部祭や部活動・サークル活動の援助



教育学部祭 E-storm

毎年秋に行われる教育学部祭、通称「E-storm」は教育学部生たちが地域のの方々や子どもたちと交流することを目的としています。地域

や社会に開かれた教育学部を実現させるため、E-storm開催に対する経済的援助を行っています。

部活動・サークル活動への支援

教育学部では、多くの学生が部活動及びサークルに加入しています。そうした学生たちのキャンパスライフを豊かなものにするために、後援会では課外活動への支援も積極的に行っており、海外遠征に赴く際の費用などを援助しています。

5 その他 その他のサポート



ベスタロッチャー教育賞への援助

広島大学教育学部主催の「ベスタロッチャー教育賞」は、優れた教育実践を行っている個人や団体に対して贈られる賞です。後援会では、経費の一部援助を行っています。

留学生国際交流パーティー

広島大学では、海外から多くの留学生を受け入れています。そうした留学生と日本人学生の親睦を深めるため、留学生国際交流パーティーを開催しています。学生たちは日本にいな

ピンチはチャンス！

教員採用試験前倒し実施への対応

就職情報資料室客員教授 杉原 敏彦

「より早く、より短く、より濃密に」一昨年（2021年）寄稿した、コロナ禍の下での教員採用試験の変化を示す文章の表題である。それから二年。改めてこれからの教員採用試験のありようを表現すれば、「より早く」となりそうだ。

コロナ禍の影響というより、民間企業が早期に採用選考を実施していることから、優秀な人材確保のためには教員採用試験日程の前倒しが必要ということのようだ。報道によれば、「文部科学省は5月31日、公立学校教員の採用試験について、来年度（2024年夏実施試験）からは従来より約1か月早い6月16日を目安に始めるよう、各地の教育委員会に要請した」（2023年6月1日付け朝日新聞）とのことである。

とすると、今まで多くの自治体で7月に実施されてきた1次試験が、これからは6月に実施される（自治体によっては要請を直ちには受け入れず先延ばしにするとところも出てこようが、趨勢として早期化は避けられまい）。多くの自治体の出願時期は現状4～5月だから、前倒しすると出願は3～4月となる。現在の3年生からは、4年に進級する直前から「教員志望の理由の文章化」を含め出願の準備をしなければならない。これはピンチではないか。

この際、学生の皆さん、会員の皆さんに言っておきたいのは、このような変化が生じたとしても何も慌てることはないということである。やるべきことは何も変わらない。今までよりも試験が早くなる、早く準備を始めなければならないということは一見ピンチではあるが、広大生にとってはむしろチャンスではないか。教員採用試験の準備とは、単にどのような試験問題が出題されるか予想し、その解答を覚えるようなハウツー的な準備では決して身につかない（これからの時代の採用試験は、特に）。今までの先輩よりも少し早く「教員になる」という決意を固めることが要諦である。そのためには、児童生徒と触れ合うなどの体験を重ねつつ、教えること、指導することとはどういうことで教員（将来の私）はどのようにふるまえばよいか考え続けてきた広大生の方が、ハウツーの準備を急いできた学生よりも有利と言ってよい。

もう一つ、教員の勤務環境ブラックとの風評がある。この言説によって教員志望を躊躇する学生もいる。これまたピンチ！確かに身の回りには「教員だけの過酷さ」「教員ならではの大変さ」が強調された情報が蔓延している。詳細を述べる紙幅はないが、厚生労働省発表（2022年10月）の新規大学卒就職者の3年以内の離職率を取り上げよう。就職者全体で31.5%。1,000人以上の大企業だけとってみても25.3%である。対して、教員の3年以内離職率は5.0%（中国地方のある自治体）。事実をしっかりと見つめることが大切で風評だけに惑わされない方がいい。考えようによっては、このような風評の中にあって教員志望の決意と意欲を保持する人には、まさにピンチはチャンスなのである。

【就職情報資料室が提供する主な就職支援】

- ・豊富な就職関係資料（全国の過去の教員採用試験問題集）の閲覧
- ・これまでの先輩の採用試験受験体験記の閲覧
- ・二人の常駐教員による進路相談
- ・出願書類の添削
- ・小論文の添削
- ・対面での面接練習
- ・集団面接の指導
- ・模擬授業の練習・個別指導
- ・各教育委員会を招いての採用試験説明会の開催
- ・同じ県の試験を受験する学生同士の勉強会（県人会）の組織・指導
- ・...etc

教育学部に設置されている「就職情報資料室」では、教育学部生は誰でもざっと挙げて上記のような指導や情報提供を受けることができる。先達はあらまほしき事なり。就職情報資料室を今までの先輩よりも1か月か2か月早く知り（そう、知らない学生も多いのだ！なんともったいない！）先達かどうかはともかくいささか体験を重ねたそこにいる者に相談してみよう。就職情報資料室を「より早く」知り、そこに行くことが、これまで以上に大きな意味を持つ気がしてならない。